

# 外來語自他兩用動詞的使用現況 —以 BCCWJ 為調查對象—

王淑琴

政治大學日本語文學系教授

## 摘要

本文調查 BCCWJ 中的外來語自他兩用動詞，藉以釐清其使用現況。本文設定以下兩個研究課題。

(a) 外來語的自他兩用動詞有哪些？當自他兩用的用法成立時，其格名詞與其用法為何？

(b) 外來語自他兩用動詞的他動詞句與「させる」句的使用傾向。

關於(a)，本文調查了在 BCCWJ 中外來語的自他兩用動詞有哪些，以及自他兩用的用法成立時之格名詞及其用法。透過本文的調查可以得知，在 BCCWJ 的外來語自他兩用動詞的各類句子中自動詞句最多，使用次數多的是「アップする」「スタートする」「オープンする」這3個動詞。

關於(b)，本文以在 BCCWJ 中使用次數最多的「アップする」「スタートする」「オープンする」為對象，調查其他動詞句與「させる」句的使用傾向。「アップする」有【動作型】句構及【原因型】句構，但「スタートする」「オープンする」只有【動作型】句構。透過本文的考察可以得知，在【動作型】句構中使用「させる」句有提高動作性的功能，而在【原因型】句構中使用，則有強調主格名詞與由主格名詞引起的事態或狀態之間的因果關係之功能。

關鍵詞：外來語、自他兩用動詞、BCCWJ、他動詞句、「させる」句

受理日期：2023 年 08 月 29 日

通過日期：2023 年 10 月 20 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202312\_(41).0005

# **Usage of Ambitransitive Verbs in Loanwords: An Investigation from BCCWJ**

Wang, Shu-Chin

Professor, Department of Japanese, National Chengchi University

## **Abstract**

The paper aims to elucidate the usage of ambitransitive verbs in loanwords based on the data of BCCWJ. Specifically, the following research questions are addressed:

(a) What types of ambitransitive verbs exist in loanwords, and which case-marked nouns do they co-occur and how are they used?

(b) What usage tendencies are observed in transitive construction and "-saseru" (causative) construction involving ambitransitive loanverbs?

Regarding (a), this paper investigates the types of ambitransitive verbs in loanwords found in BCCWJ and the case-marked nouns of those verbs. It is revealed that intransitive sentences constitute over half of the instances, and the most high-frequency ambitransitive loanverbs are "appu-suru" (to go up), "sutaato-suru" (to start), "oopun-suru" (to open).

For(b), this paper examines the tendencies in using these verbs in transitive sentences and "-saseru" (causative) sentences, focusing on the frequently appearing ambitransitive loanverbs "appu-suru", "sutaato-suru", "oopun-suru". "Appu-suru" are found in [action-type] construction and [cause-type] construction, while "sutaato-suru" and "oopun-suru" are found only in [action-type] construction. The analysis reveals that "-saseru" sentences carry the function of enhancing action and causality.

Keywords: Loanword, Ambitransitive Verb, BCCWJ, Transitive Sentence, "-saseru" Sentence

# 外来語自他両用動詞の使用実態 —BCCWJ の調査から—

王淑琴

政治大学日本語文学科教授

## 要旨

本稿の目的は BCCWJ を調査対象に外来語自他両用動詞の使用実態を明らかにすることである。具体的に以下の研究課題を設定した。

- (a) 外来語自他両用動詞にはどのようなものがあり、自他両用が成立する場合、どういう格名詞と共起しどのように使われているか。
- (b) 外来語自他両用動詞の他動詞文と「させる」文はどのような使用傾向が見られるか。

(a) について、本稿は BCCWJ において外来語自他両用動詞にはどのようなものがあり、自他両用が成立する場合どのような格名詞と共起しどのように使われているかを調査した。その結果、自動詞文が半分以上を占めており、使用頻度が高いのは「アップする」「スタートする」「オープンする」の 3 語であることが明らかとなった。

(b) について、本稿は BCCWJ において高頻度で現れる外来語自他両用動詞「アップする」「スタートする」「オープンする」を対象に、その他動詞文と「させる」文の使用傾向を考察した。「アップする」は、【動作型】構文と【原因型】構文があるが、「スタートする」「オープンする」は【動作型】構文のみある。本稿の考察から【動作型】構文で「させる」文は動作性を高める働きがあり、【原因型】構文で「させる」文は主格名詞とそれにより引き起こされる事態や状態との間の因果関係を強める働きがあることが明らかとなった。

キーワード：外来語、自他両用動詞、BCCWJ、他動詞文、「させる」文

# 外来語自他両用動詞の使用実態 —BCCWJの調査から—

王淑琴

政治大学日本語文学科教授

## 1. 研究目的

外来語動詞の中に次のような自動詞としても他動詞としても使われる自他両用動詞がある。

(1) a. 人気のショップや貴金属店に行くと仕事運と金運がアップします。  
(BCCWJ\_PB5n\_00053)

b. 大寒の卵を食べて金運をアップしましょう。  
(BCCWJ\_PB5n\_00053)

従来の自他両用動詞の研究について、和語や漢語に絞るものが多く、外来語を取り上げるものが少ない。外来語の自他両用動詞についての研究はいくつかあるが、実際にどのように使われているかなどその使用実態が不明である。本稿は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を調査対象にし、外来語自他両用動詞の使用実態を明らかにするのが目的である。具体的に以下の研究課題を設定する。

(a) 外来語自他両用動詞にはどのようなものがあり、自他両用が成立する場合、どういう格名詞と共起しどのように使われているか。

(b) 外来語自他両用動詞の他動詞文と「させる」文はどのような使用傾向が見られるか。

(a)(b)の研究課題と先行研究との関連を以下の2.で述べる。

## 2. 先行研究

外来語の自他両用動詞についての研究は、田川(2016、2018)、ピタソ(2017)、北澤・王(2021)がある。田川(2016、2018)は外来語サ変動詞の自他動詞用法を調査し、漢語サ変動詞と比べて、他動詞タイプがかなり多いことと、自他両用タイプがそれほど多くないことを明

らかにしている。自他両用タイプ、自他両用の疑いがあるものを(A)のように指摘している。

(A) 自他両用タイプ、自他両用の疑いがあるもの

(給料が／を) アップする、(新店舗が／を) オープンする、(新生活が／を) スタートする、(供給が／を) ストップする、(担当が／を) チェンジする、(5 つの作品が／を) ノミネートする、(車が／利益の一部を) バックする、(店が／を) リニューアルする、(時間が／を) ロスする、(道具が／を) スイッチする、(情報が／サイトを) リンクする  
(田川 2016、2018)

田川 (2016、2018) の自他両用の判定は、実例や辞書による確認と田川の内省によるものであり、それらの自他両用動詞が実際にどのように使われているかが分からない。ビタン (2017) は外来語サ変動詞の自他性を調査し、外来語サ変動詞では他動詞がおおよそ 60%を占め、自動詞 (約 18%)、自他両用の動詞 (約 17%) の 3 倍以上あることを明らかにしている。外来語サ変動詞には他動詞が多く、自他両用動詞がそれほど多くないという調査結果は田川 (2016、2018) と同様である。ビタン (2017) は外来語サ変動詞の自他の計量的分布を調査するものであり、どのような用法があるかは指摘していない。

北澤・王 (2021) は外来語サ変動詞の使用実態を調査し、自他両用のものについて、『明鏡国語辞典初版』或いは『岩波国語辞典第七版』で「自他両用サ変動詞」と認定される(B)の 12 語の外来語自他両用動詞を「聞蔵II」に基づいて、その他動詞用法、自動詞用法、「させる」文、「される」文を調査した。その結果、自動詞用法が多い語には「ダウン」「サイン」「オープン」「スライド」「コメント」「ストップ」「アップ」があり、他動詞用法が多い語には「サービス」「チェンジ」「オーバー」「リード」「リフレッシュ」があることが明らかとなった。

(B) 「アップ」、「オープン」、「リード」、「コメント」、「ダウン」、「スト

ップ」、「サイン」、「サービス」、「オーバー」、「リフレッシュ」、「チェンジ」、「スライド」

北澤・王（2021）は自他両用動詞の自他用法の使用傾向を調査しているが、一部の格名詞しか調査していないので、全体的にどのような格名詞と共起する場合に自他用法が成立するかが分からない。例えば「アップ」について、その前接する名詞「～力」「～率」「～度」「写真」との共起を調査し表1の結果を明らかにしているが、それ以外の格名詞との共起状況が分からない。

表1 「アップ」に前接する名詞別の用例数（北澤・王 2021: 26）

名詞	スル自	サレル	スル他	サセル	合計
～力	371	1	214	234	820
～率	229	14	117	144	504
～度	107	0	54	73	234
～写真	0	18	66	0	84

以上で述べたように、外来語自他両用動詞は全体的にどのようなものがあるか、また、どういう格名詞と共起しどのように使われているかについての記述が十分とは言えない。本稿は BCCWJ を調査対象にし、外来語自他両用動詞にはどのようなものがあり、また、自他両用が成立する場合どういう格名詞を取りどのように使われているか、つまり、上記の研究課題(a)を明らかにする。

一方、北澤・王（2021）は外来語自他両用動詞の各形式間の関係、つまり、自動詞文と「される」文、他動詞文と「させる」文の選択にかかわる特徴を指摘し、それぞれ表2、表3にまとめている。

表2 「外来語スル（自動詞用法）」と「外来語サレル」の選択に関わる特徴（北澤・王 2021: 59）

外来語する（自動詞用法）	外来語サレル
【事態の出来事を述べる】	【外部からの原因で引きこされる】
	【動作主が省略されている】

表 3 「外来語スル（他動詞用法）」と「外来語サセル」の関係（北澤・王 2021: 59）

	外来語スル（他動詞用法）	外来語サセル
1	【主体が対象をコントロールできる】	【外部からの原因がある】
2	【理由や意図、経緯を表す文要素を含まない】	【理由や意図、経緯を表す文要素を含む】
3	【単に事態、動作を説明する】	【間接的な方法手段が明示されている】
4	【単に事態、動作を説明する】	【外部からの原因がある】
5	【理由や意図、経緯を表す文要素を含まない】	【理由や意図、経緯を表す文要素を含む】
6	【主体性が強い】	【プロセス性が強い】
7	【聞き手への働きかけを表すモダリティが生起しやすい】	【主体性が弱い】

のちに見るように、BCCWJ における外来語自他両用動詞の「される」文はわずかなので、本稿は他動詞文と「させる」文の特徴にしぼって考察する。北澤・王（2021）が指摘した表 3 について、例えば、「知名度をアップする／アップさせる」で説明すると、(2)の「知名度をアップする」は「アップ」という結果に注目し、【理由や意図、経緯を表す文要素を含まない】という点が特徴的であるとしている。これに対し、(3)の「知名度をアップさせる」は前後に満足度と認知度をアップするために何をやるべきかという紹介であるので、【理由や意図、経緯を表す文要素を含む】と述べている。

(2) ゴールデンウィーク中には数多くのイベントが予定されており、県東部の良さと「東部博」の知名度をアップしたい考えだ。

（2015 年 04 月 29 日 朝刊 高知全県・1 地方）

（北澤・王 2021: 57）

(3) 具をご飯の下にうずめる郷土料理「うずみ」で福山の知名度をアップさせようと、福山市がうずみ弁当のレシピと、底にひそま

せる「メッセージ」の募集を始めた。(2015年12月05日 夕  
刊 1 社会) (北澤・王 2021: 57)

表2、表3の違いは個別の用例を説明するのに有効であるが、他動詞文と「させる」文の全体的な使用傾向が見えない。本稿は(a)の調査結果に基づいて、外来語自他両用動詞の他動詞文と「させる」文の使用傾向、つまり、研究課題(b)を明らかにする。

### 3. 資料収集と用例処理

本稿は二段階作業で資料を収集した。第一段階ではまず外来語動詞全体において、自他両用動詞がどれくらいあるかを調査し、その格名詞を記録する。次に第二段階ではそれらの自他両用動詞と格名詞による他動詞文、自動詞文、「させる」文、「される」文を認定し、それぞれの用例数を計算した。

まず、「中納言版データ」のサイト<sup>1</sup>から BCCWJ 短単位語彙表をダウンロードして、以下の条件で外来語サ変動詞を抽出する。

wType:外

pos:名詞－普通名詞－サ変可能

名詞－普通名詞－サ変形状詞可能

「名詞－普通名詞－サ変可能」の頻度が10以上の外来語動詞計505語(見出しが■になっている4語を除く)、「名詞－普通名詞－サ変形状詞可能」の頻度が10以上の外来語動詞計7語、合わせて512語を調査対象にする。次に、この512個の外来語動詞が自他両用の用法を持つか確認するために、コーパスツール NLB<sup>2</sup>を使って確認した。自他両用動詞の定義について、本稿は森田(2000)を参考にし、(4)のような「同じ語形が意味面で自他間に共通性を持ち、文法面でも格に立つ名詞語彙に異動がない」ものを「自他両用動詞」と認め、その格名詞を記録する。(5)のような他動詞のヲ格名詞が自動詞のガ格名詞と違うものは、森田(2000)は「自他同形動詞」と呼び、「多義語の文法的寄

<sup>1</sup> <https://ccd.ninjal.ac.jp/bccwj/bcc-chu.html>

<sup>2</sup> <http://nlb.ninjal.ac.jp>

り合い所帯とでも言うべき性格の語彙である」(p.63)と指摘している。(5)のような「自他同形動詞」は同じ語の多義的用法とも考えられるので、本稿は研究対象としない。

(4) a. (川が) 水かさを増す。

b. (川の) 水かさが増す。

(5) a. 責任を負う。(cf.\*責任を負う)

b. 世人の努力に負う。 (森田 2000: 66,69)

512語の調査対象のうち、自他両用と認定された動詞はわずか20語である。この調査結果は、外来語の自他両用動詞がそれほど多くないという先行研究(田川 2016、2018、ビタン 2017)の調査結果と一致している。これらの自他両用動詞が具体的にどのように使われているかを知るために、第二段階の作業ではBCCWJの検索アプリケーション「中納言」のサイトでこれらの動詞を含む用例を次の方法で抽出し(次は「アップする」の場合である)<sup>3</sup>、自他両用動詞とその格名詞による他動詞文、自動詞文、「させる」文、「される」文の用例数を集計した。

【短単位検索】 【共起検索】

語彙素読み：アップ

語彙素読み：スル

自他動詞文の判別は、張(2014)の漢語動詞の認定基準を参考にし、ヲ格の目的語を取るものを他動詞文、ヲ格の目的語を取らないものを自動詞文と認定する。また、用例の集計は以下の原則による。

- ① 格名詞の下位分類を表すものをまとめて集計する。例えば、「足／左足／千鳥足をステップする」の用例をすべて「足をステップする」の用例として集計する。また、格名詞が複数ある場合は格名詞ずつ集計する。例えば、「恋愛運と金運をアップする」の場合、「恋愛運」と「金運」をともに「アップする」の格名詞と見なし、両方とも「～

---

<sup>3</sup> この方法で抽出されるのは動詞として使われる用例のみであり、次のような名詞として使われる用例が抽出されない。

(i)時給のアップについてですが、基本的に派遣先が上げてくれない事には、どうにもならない話なのではないでしょうか。(BCCWJ\_OC04\_00954)

運をアップする」の用例として数える。

②動詞の派生語（例えば「再スタート」）や複合語（例えば「バージョンアップする／スケールアップ／学力アップ」）は、合成語になることで動詞の自他性に影響が出る可能性があり集計しない。また、「～しやすい」「～しにくい」の用例は自他の判別ができないので処理しない。

③次のような名詞修飾節内の動詞が被修飾名詞と格関係にあるものは、自他の判別ができないので集計しない。

(6)美術館は近年オープンしたホテル・ニューオータニガーデンコート6階にあり、「第一回東山魁夷記念日経日本画大賞展」が日本経済新聞社の主催で開催された。 (PB47\_00157)<sup>4</sup>

④格助詞、格名詞の省略、とりたて助詞にとってかわられた助詞を次の原則に基づいて処理を行う。

(a)動詞と共起する文型や使われる構文。意志や願望表現と共起するものを他動詞文と認定する ((7)(8)参照)。また、例えば(9)の「アップする」は「～次第で」との共起、また前後の文脈の意味（次の原則(c)）から、「金運がアップする」という自動詞文であることが分かる。

(7)金運は大寒の卵でアップしましょう。 (PB5n\_00053)

(8)少しづつ練習に行くこと自体に体をならしながら・・・体力UPしていきたいなど思う次第です。 (OY15\_00384)

(9)金運、仕事運 あなたの気持ちが金運や仕事の成果に表れます。  
金運は情報処理能力次第で大きくアップします。 (PB5n\_00014)

(b)動詞文の前文。前文に条件節（～と、～ば）やそれに準ずるものが来て、文全体が「その状況のもとである結果状態が生じる」という意味を表す場合、後文が自動詞文であると考えられる。例えば、(10)はトランクコンビネーションバーをセットで使用するという条件のもとで「剛性がアップする」という結果になるという意味を表し、「剛性もアップする」を自動詞文とする。(11)はアレルギー体質を治すとい

<sup>4</sup> 本稿で提示する用例はすべて BCCWJ によるものなので、以下では例文のサンプル ID のみ示す。

う手段のもとで記憶力などが二倍に上がるという結果が生じるという意味を表すので、自動詞文とする。<sup>5</sup>

(10)トランクコンビネーションバーをセットで使用すれば、4点支持となり剛性もさらにアップしちゃうぞ。 (PM45\_00052)

(11)アレルギーになるにはいろいろな原因がありますが、アレルギー体質を作るのは食べ物が大きなウェートを占めていることは確かです。アレルギー体質を治すだけで、記憶力、集中力、持続力は二倍にアップします。 (LBn4\_00012)

(c)動作主の存在や文脈の話題。例えば、(12)は劇場が始まる状態を引き起こす動作主が不明であり、自動詞文とする。また、(13)は車のレースという場面を描写する文であり、車に焦点が絞られているので「全車スタート」を自動詞文（「全車がスタート」）とする。

(12)二十一世紀の劈頭。平成十三年（二千一）一月一日。いよいよ待望の新東京宝塚劇場はオープンした。 (LBq7\_00058)

(13)全車スタートしたので、一部立ち入り禁止が解除。ストラトス。舐めるように眺めてみました。 (OY15\_13535)

上記の方法で得られた外来語自他動詞の用例数は 964 例である。

#### 4. 外来語自他両用動詞とその格名詞による各種類の文

表 4 は BCCWJ における外来語自他両用動詞とその格名詞による他動詞文、自動詞文、「させる」文、「される」文の用例数をまとめたものである。表 4 から、自動詞文がもっとも多く使われ、用例全体の半分以上を占めていることが分かる。また、各動詞の用例数が少なく、用例数の総計が 100 例を超えたのは「アップする」「スタートする」「オープンする」の三つの動詞のみである。

---

<sup>5</sup>原則(a)「動詞と共起する文型や使われる構文」と原則(b)「動詞文の前文」を満たした文は、多くの場合(11)の例のように、原則(c)「動作主の存在や文脈の話題」も満たしている。つまり、複数の条件で自他動詞文の判断が行われるのである。

表 4BCCWJ における外来語自他両用動詞とその格名詞による各種類の文の用例数

動詞	格名詞	他動 詞文	自動 詞文	「さ せ る」 文	「さ れ る」 文	合計
アップ	～さ、～力、～性、～度、～率、 ～感、～運	55	253	66	2	376
スタート	～づくり、～日、～会、～車、 ～制、ゲーム、シーズン、ヒー ト、プロジェクト、レース、仕 事、生活、交流、交渉、交際、 会社、体制、改革、事業、制度、 取引、放送、活動、研究、計画、 授業、販売、開発、審議	46	162	75	1	284
オープン	～店、～所、～園、～館、ショ ップ、プティック、ホテル、店 舗、劇場	36	83	13	0	132
オーバー	サイズ、予算、文字数、時間	15	9	0	0	24
スクロール	ページ、画面	13	4	5	0	22
クリック	マウス	12	1	0	6	19
ストップ	工事、生産、流れ、連敗	5	11	3	0	19
カール	髪	5	3	4	0	12
リンク	データ、知識、政策	3	4	1	3	11
シフト	中心、拠点	4	4	2	0	10
クロス	足、道	3	2	4	0	9
ミックス	テイスト、要素	5	2	0	1	8
ロック	タイヤ(車輪)	2	4	2	0	8
エスカレート	行動	1	5	1	0	7
バウンド	ボール	1	4	1	0	6
リニューアル	ホームページ (HP)、店	3	2	0	1	6
ステップ	足	3	1	0	0	4
フィードバック	評価	1	1	0	1	3

インストール	ホームページビルダー	1	1	0	0	2
チェンジ	色	1	1	0	0	2
合計		215	557	177	15	964

自他動詞文に絞ってみると、表 4 で他動詞文、自動詞文がともに 10 例を超えたのも「アップする」「スタートする」「オープンする」のみである。それらの動詞は、動詞の意味から見れば「開始」（「スタートする」「オープンする」）や「増加」（「アップする」）の意味を表す。小林（2004: 73-74）は漢語の自他両用動詞が『分類語彙表』の「増減」「開始・終了」「出現」「破壊」「伸縮」に属するものが多いと指摘している。BCCWJ における外来語の自他両用動詞についても、使用頻度が高い動詞は同様の傾向が見られると言える。以下では、頻度が高い「アップする」「スタートする」「オープンする」を見る。

表 5 は「アップする」とその格名詞による各種類の文の用例数を示したものである。いずれも用例数の合計が 10 例を超えており、今回の調査では用例数が多いものである。

表 5 「アップする」とその格名詞による各種類の文の用例数

動詞	格名詞	他動詞文	自動詞文	「させ る」文	「され る」文	合計
アップする	～運	16	64	8	0	88
アップする	～力	13	58	23	2	96
アップする	～度	10	40	10	0	60
アップする	～率	8	53	12	0	73
アップする	～さ	2	16	3	0	21
アップする	～感	3	10	4	0	17
アップする	～性	3	12	6	0	21
合計		55	253	66	2	376

表 5 の格名詞を見ると、力（「～力」）や運（「～運」）、度合（「～率」「～度」）、性質（「～さ」「～性」「～感」）を表すものである。つまり、両用動詞として使われる「アップする」は、その自動詞文は力や運、度合、性質が高まるという意味を表し（(14)参照）、他動詞文は人間や物事が力や運、度合、性質を高めるという意味を表す（(15)参照）。

(14)西方位にはお金に関するものを置き、北方位にはフルーツの絵やフルーツがモチーフのものを、東南方位には観葉植物を置くと金運がアップします。(PB5n\_00018)

(15)財布が汚れていると金運が下がってしまいますよ。大寒の卵を食べて金運をアップしましょう。(PB5n\_00053)

表6は「スタートする」とその格名詞による各種類の文の用例数を示したものである。表6を見ると「スタートする」は格名詞の種類が多く、用例が分散していることが分かる。「スタートする」の格名詞の種類は29個あるが、そのうち、用例数の合計が10例を超えたのは10個のみあり、低頻度のものが多い。また、自他動詞文の数に絞ってみると、「(～日)を／がスタート」(例えば「(一日／最終日)を／がスタートする」)を除いて、すべて自動詞文が他動詞文より多い、或いは用例数が同じであることが分かる。

表6 「スタートする」とその格名詞による各種類の文の用例数

動詞	格名詞	他動詞 文	自動詞 文	「させ る」文	「され る」文	合計
スタートする	～づくり	1	4	0	0	5
スタートする	～日	3	1	1	0	5
スタートする	～会	2	11	3	0	16
スタートする	～車	1	6	27	0	34
スタートする	～制	1	4	0	1	6
スタートする	ゲーム	1	1	0	0	2
スタートする	シーズン	1	1	0	0	2
スタートする	ヒート	1	1	0	0	2
スタートする	プロジェクト	2	9	3	0	14
スタートする	レース	1	11	1	0	13
スタートする	仕事	1	1	0	0	2
スタートする	生活	6	9	12	0	27
スタートする	交流	1	3	0	0	4
スタートする	交渉	1	1	1	0	3
スタートする	交際	1	1	0	0	2
スタートする	会社	1	1	2	0	4

スタートする	体制	1	4	0	0	5
スタートする	改革	1	2	1	0	4
スタートする	事業	2	9	5	0	16
スタートする	制度	4	33	4	0	41
スタートする	取引	1	3	0	0	4
スタートする	放送	1	4	0	0	5
スタートする	活動	1	6	5	0	12
スタートする	研究	1	4	1	0	6
スタートする	計画	1	20	5	0	26
スタートする	授業	1	1	0	0	2
スタートする	販売	1	2	1	0	4
スタートする	開発	5	7	3	0	15
スタートする	審議	1	2	0	0	3
合計		46	162	75	1	284

「スタートする」の格名詞について、用例数の合計が 10 例を超えた 10 個の格名詞（「～会」「～車」「プロジェクト」「レース」「生活」「事業」「制度」「活動」「計画」「開発」）を見ると、「～車」を除いて人間が主体の活動を表す名詞である。つまり、両用動詞として使われる「スタートする」は、その自動詞文はほとんどある活動が始まる（(16)参照）、他動詞文はほとんど人間・組織がある活動を始めるという意味を表す（(17)参照）。

(16)ハワイを発見したのは縄文人かもしれないという仮説のもと、  
 二千一年三月、日本でも「海洋塾」プロジェクトがスタートした。  
 (PM15\_00060)

(17)実は五十四年から理研が中心になりまして、(中略)。さらに昨年  
 から、いわゆるサミット諸国におきますサミットプログラム  
 の中で十八のプロジェクトを今スタートしておりますけれども、  
 (後略)。(OM21\_00006)

表 7 は「オープンする」とその格名詞による各種類の文の用例数を示したものである。表 7 では「オープンする」の格名詞の種類が 9 個あるが、そのうち、用例数の合計が 10 例を超えたのは「(～店)を／がオープンする」「(～館)を／がオープンする」「(ショップ)を

／が「オープンする」の三つのみである。また、自他動詞文の数に絞ってみると、「オープンする」はどの格名詞と共起する場合でも自動詞文が他動詞文より多い、或いは用例数が同じであることが分かる。

表7 「オープンする」とその格名詞による各種類の文の用例数

	格名詞	他動詞 文	自動詞 文	「させ る」文	「され る」文	合計
オープンする	～店	20	34	7	0	61
オープンする	～所	1	1	0	0	2
オープンする	～園	1	4	0	0	5
オープンする	～館	1	23	2	0	26
オープンする	ショップ	5	6	1	0	12
オープンする	プティック	1	1	1	0	3
オープンする	ホテル	3	6	0	0	9
オープンする	店舗	2	6	1	0	9
オープンする	劇場	2	2	1	0	5
合計		36	83	13	0	132

「オープンする」の格名詞は、店や施設などを表すものである。つまり、両用動詞として使われる「オープンする」は、その自動詞文は店や施設が開く（(18)参照）、他動詞文は人間・組織が店や施設などを開くという意味を表す（(19)参照）。

(18)通りはきれいで、塗り直されたばかりの建物のファサードは彩りも美しく、新しい店が次々にオープンしていた。(LBj2\_00071)

(19)ぼくが初めて自分で目標を設定したのは、最初の店をオープンしたときです。(PB41\_00029)

4節では、BCCWJにおいて外来語自他両用動詞は全体的にどのようなものがあるか、また、自他両用が成立する場合にどのような格名詞を取りどのように使われているかを見た。つまり、冒頭の研究課題(a)が明らかになったと思われる。次に5節では研究課題(b)、つまり、外来語自他両用動詞の他動詞文と「させる」文の使用傾向を見る。

## 5. 外来語自他両用動詞の他動詞文と「させる」文の使用傾向

漢語動詞、外来語動詞は文法の働きを持つ形態素で自他性を示すので「文法的ヴォイス」と呼ばれ、自他動詞のような「語彙的ヴォイス」と区別される(寺村 1982、野田 1991)。漢語動詞、外来語動詞の場合、形態的に対応する自他動詞対がないので、自動詞用法が基本の動詞は「させる」形で他動詞の役割を、他動詞用法が基本の動詞は「される」形で自動詞の役割を果たさせると指摘されている(庵等 2001)。自他両用動詞は、自他用法を併せ持っているので自動詞文、他動詞文のほかに、「させる」文と「される」文も見られるはずである。しかし、表 4 から「される」文を持たない自他両用動詞が多く全体でも 15 例しかなく、外来語自他両用動詞の場合、自動詞用法はほとんど自動詞文によって果たされていることが分かる<sup>6</sup>。これに対し、他動詞文も「させる」文も一定の用例数があり、その出現環境に違いが見られるかが興味深い。以下では、「アップする」「スタートする」「オープンする」を対象に構文タイプからその他動詞文と「させる」文の使用傾向を見る。

### 5.1 他動詞文と「させる」文の構文タイプ

他動詞文も「させる」文も起因作用 (causation) — 「誰か／何かが何らかの出来事を引き起こす」 — という意味内容を表す(荒井 1991: 83) ので、表現できる構文の種類に類似性が見られると考えられる。

---

<sup>6</sup> その理由について、「される」文は動作主の存在を含意するため、完全に自動詞文の代わりに使用することができないからであると考えられる。例えば(i)のような動作主が分からない文脈では、自動詞文が使われ「される」文が使いにくい。  
(i) ハワイを発見したのは縄文人かもしれないという仮説のもと、二千一年三月、日本でも「海洋塾」プロジェクトがスタートした。 (PM15\_00060)

永澤(2007)は、「太陽コーパス」などの近代日本語コーパスから漢語動詞を抽出し現代の用法と比べ、多くの自他両用動詞が自動詞専用化したことを明らかにしている。その理由について、受身の接辞「-される」は必ず背後に動作主の存在を感じさせるため、次のような文脈では自動詞用法に代わることができないと指摘している。

(ii) 風が吹き、風車が回転した／\*回転された。

(iii) 気温があがり、花粉の飛散地域が拡大／\*拡大された。(永澤 2007: 25)

外来語自他両用動詞の場合も同様に、「される」文を完全に自動詞文の代わりに使用することができないので、自動詞用法は主に自動詞文によって果たされるのであると考えられる。

本稿は他動詞文と「させる」文を【動作型】構文と【原因型】構文に分け、その分布の違いを見る。以下では構文を「XがYをする／させる」と示す。

【動作型】構文はXが直接、或いは間接的にYに働きかけて、Yの状態変化を引き起こすという意味を表す。(20)(21)のようなXが人間を表し、Yがものを表す文が典型的である。また、(22)(23)のようなXが組織を表す文は、XがYの状態変化の引き起こし手であり、この種類の構文であると考えられる。

(20)ぼくが初めて自分で目標を設定したのは、最初の店をオープンしたときです。 (PB41\_00029)

(21)理沙は、もう、アクセルを踏んで、車をスタートさせていた。 (LBb9\_00012)

(22)陸軍兵器局は千九百三十八年、当時量産が始まっていたIII号、IV号戦車の後継となる新型戦車の開発をスタートした。 (PB55\_00203)

(23)地元大手は新業態店をオープンさせ、火災の影響で閉鎖していたライバルの巨艦店は再オープンにこぎつけた。 (PN2e\_00008)

【原因型】構文はXがきっかけでYが表す事態や状態の変化が起きるという意味を表し、Xに物や出来事を表す名詞が来るという特徴がある(佐藤 1990、青木 2006<sup>7</sup>)。(24)(25)はXが物名詞を表しており、例えば、(24)は「北方位」が不動産運が上がることの原因であるという意味を表す。(26)(27)はXが出来事名詞を表す例であり、例えば、(26)は「ラメ加工」がフリンジのラグジュアリー感が向上する原因であるという意味を表す。

(24)北方位は仕事運や信頼度、不動産運をアップしてくれます。 (PB5n\_00053)

(25)ハーブは西洋の漢方薬ともいわれ、その薬効成分により、血行を促進して、免疫力をアップさせます。 (PB5n\_00145)

---

<sup>7</sup> 原因を表す使役文(「させる」文)は佐藤(1990)、原因を表す他動詞文は青木(2006)を参照。青木(2006)の他動詞文には「させる」文も含まれる。

(26)毛足の長いフリンジには、ラグジュアリー感をアップする上品なラメ加工が施されています。(PM51\_00620)

(27)また、家族団らんは仕事運をアップさせます。(PB5n\_00053)

以上で述べたように、【動作型】構文は「誰かが何らかの状態変化を引き起こす」という意味を表し、Xに人間、或いは組織を表す名詞が来る。これに対し、【原因型】構文は「何かは何らかの事態や状態の変化を引き起こす」という意味を表し、Xに物や出来事を表す名詞が来る、という違いがある。格名詞 X の違いでほとんどの文を類型化できるが、中には格名詞の特徴と構文の種類が対応しないものもある。例えば、(28)の「ブログ」は組織ではなく物名詞を表しているが、文の意味から見ると「ブログを管理する人間」の意味を表すので【動作型】構文に分類する。

(28)4月ですからね、このブログも新しいカテゴリの楽しい記事をたくさんのせて、顧客満足度をUPしなくてはねっ(鼻息)!

(OY14\_49737)

以下では構文のタイプから「アップする」「スタートする」「オープンする」の他動詞文と「させる」文の使用傾向を見る。

## 5.2 「アップする」の場合

「アップする」の他動詞文(「～をアップする」と示す)と「させる」文(「～をアップさせる」と示す)の構文タイプを表8にまとめる。

表8 「～をアップする/させる」の構文タイプ

	【動作型】	【原因型】	合計
「～をアップする」	44(80%)	11(20%)	55(100%)
「～をアップさせる」	37(56%)	29(44%)	66(100%)

表8から【動作型】構文の場合、「～をアップする」が「～をアップさせる」より多く使われているのに対し、【原因型】構文の場合、「～をアップさせる」が「～をアップする」より多く使われていることが分かる<sup>8</sup>。「アップする」の場合、他動詞文と「させる」文の担う機能

<sup>8</sup> js-star (<https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm>) の直接確率計算 2 ×

が分化していることが窺える。次に同じく【動作型】、或いは【原因型】に属する「～をアップする」と「～をアップさせる」の違いを見る。

【動作型】の場合、「～をアップさせる」は次の例が示すような前に手段を表す節<sup>9</sup>が伴われる例が多く見られる。

(29)料理研究家・栗原はるみ氏と共同開発したオーブンレンジ。(中略) 加えて、側面と奥面に熱反射率の高いフッ素塗装を施し、熱効率をアップさせた。 (PM11\_00201)

【動作型】の「～をアップする」と「～をアップさせる」のうち、(29)のように前に手段節が伴われる文の割合を表 9 にまとめる。用例数がほぼ同じであるが、割合で見ると「～をアップさせる」の方が高いことが分かる。

表 9 「アップする」の【動作型】構文の前文に手段節が伴われる文の数

【動作型】	前文に手段節を伴う文
「～をアップする」	44 例のうち 21 例 (全体の 48%)
「～をアップさせる」	37 例のうち 23 例 (全体の 62%)

「～をアップさせる」の前に手段節が多く現れることは、「～をアップさせる」はより動作性の高い文脈で使われていることを示唆している。ここから、「させる」文は動作性を強める機能があると言える。(30)は X (=喜国さん) が人間、Y (=本棚の収納力) が物の性質を表し、働きかけの意味が強い文である。このような人間が物に働きかける文は、「～をアップする」には見られない。

(30)ミステリ本を収集している喜国さんは、あふれる本を前に、ないなら作ればいいと考えた。最初は既製品に横板をつけ収納力をアップさせていたが次第にガマンできなくなり自作の道へ。 (LB00\_00017)

表 8 では「～をアップする」は主に【動作型】で使われているのに

2 表(Fisher's exact test)を用いて検定を行った結果、両側検定で  $p=0.0066$ 、有意差が見られた。つまり、【動作型】構文か【原因型】構文かは「～をアップする」「～をアップさせる」の選択と関連しているということが言える。

<sup>9</sup> 連用形やテ形によって後文(「～をアップする／をアップさせる」の文)に接続し、後文の手段を表す節である。

対し、「～をアップさせる」は【動作型】と【原因型】がほぼ同じぐらいの割合で使われ、用法の分化機能が「～をアップする」ほどではないと言える。これは、「～をアップさせる」に「使役余剰」（定延2000）と呼ばれるものが入っているからであると考えられる。定延（2000）は、(31)(32)のような本来他動詞を使う文で「させる」形を使う表現を「使役余剰」と呼んでいる。

(31)夕陽は、正面に見えるアパートのうしろに落ち、女の部屋のあたりを暗くさせていた。[宮本輝（1980）「西瓜トラック」、『星々の悲しみ』、新潮文庫、1984、p.90]（定延2000:116）

(32) [医者 of セリフ]あの睡眠薬が解毒剤になるなんて。しかしそれはそれで僕に納得がゆくが、一方、神経中枢にまで影響して、中風を促進させるとは考えていなかった。[カトリーヌ・アルレー（1953）*TU VAS MOURIR!*／望月芳郎（1963 訳）『死の匂い』、創元推理文庫、p.208]（定延2000:117）

「～をアップさせる」にも「使役余剰」と思われるものがある。例えば、BCCWJでは(33)(34)のような占い関係の文章に現れる「～運をアップする／させる」の用例が数例ある。(34)は「～をアップさせる」が使われているが、「～をアップする」を使っても意味が変わらない。

(33)大寒の卵を食べて金運をアップしましょう。（PB5n\_00053）

(34)北西にはグリーンを使って健康運を上げ、あわせて北側にはワインレッドを使って金運をアップさせましょう。（PB21\_00104）

庵・宮部（2013）の調査から、「使役余剰」が漢語動詞において安定的に見られる現象であることが分かった。同じく統語的ヴォイスで自他を示す外来語動詞にも使役余剰の現象が見られると考えられる。

「アップする」は自他両用動詞なので、他動詞用法が必要な文脈で「～をアップする」を使うだけでも表現できるが、「させる」文を使うとより動作性が強調されるという効果があると考えられる。このように、【動作型】構文に「させる」文が多用されることにより、「～をアップさせる」の分化機能が弱くなっていると考えられる。

次に【原因型】の「～をアップする」と「～をアップさせる」の違

いを見る。【原因型】構文の場合、「させる」文を使うことによって因果関係をより明確に示すことができる。【原因型】構文は物名詞や出来事名詞を主格に取り、それとある事態との因果関係を表すものである。この機能は他動詞文でも「させる」文でも果たせるが、日本語の他動詞文は再帰的な読みも可能なので、「させる」文を使うと因果関係をより明確に示すことができる。例えば、(35)では「させる」文を使うことで、主語の「WH-5（ヴァージョンのロケットモーター）」は支援戦闘機の燃料消費効率が大幅に上がる原因であるということを明示できる。この文でもし他動詞文を使うと、再帰的な読みも可能になる、つまり、WH-5は自ら燃料消費効率が上がる状態を所有するという意味にも解釈できるので、「させる」文を使ったほうが、WH-5と支援戦闘機の燃料消費効率が上がることとの間の因果関係が明確である。

10

(35)支援戦闘機のモデルとなったのはX-二十四であった。搭載予定のロケットモーターは、WH-5ヴァージョンが、石川島播磨重工で完成していた。WH-5は、燃料消費効率を大幅にアップさせ、スピードをマッハー．五に抑えた。 (LBi7\_00041)

仁田（1982）が指摘しているように、再帰構文は「他者への働きかけ」といった意味的特徴をもたないため、自動詞に近づいている（(36)参照）。高橋（1975）、工藤（1991）も再帰構造の文が自動詞に近いと指摘し、また、無生物主語の他動詞文にも再帰構文と似た形式を持つものがあると指摘している（(37)(38)参照）。【原因型】構文は無生物主語を取るものであり、その他動詞文は再帰的な読みが可能である。「させる」文を使うことで再帰的な読みを避け、主語とそれにより引き起こされる事態や状態との間の因果関係を明示できる。

(36)子どもは手を叩いて喜んだ。 (仁田 1982: 87)

<sup>10</sup> 本稿は他動詞文も「させる」文も因果関係を表すことができ、「させる」文を使うと因果関係がより強調されると考えている。これに対し、審査者からは他動詞文が再帰的な意味を表すのに対し、「させる」文が因果関係の意味合いを表し、両者が役割を分担しているという指摘を受けた。【原因型】構文の場合、他動詞文と「させる」文はそれぞれ再帰的な意味と因果関係を表す傾向があるか、つまり、両者が役割を分担しているかを検証するのを今後と課題としたい。

(37)一週間前の大嵐で、発動機船がスクリュを壊してしまった。

(高橋 1975: 3)

(38)通りの家は全部戸を入っていた。

(工藤 1991: 29)

「～をアップする」「～をアップさせる」と共起する表現からも、「させる」文は因果関係を強調する働きがあることが分かる。【原因型】の「～をアップする」と「～をアップさせる」のうち、(39)や(40)のような、前に手段節や原因節が伴われる文の割合を表 10 にまとめる。

(39)ハーブは西洋の漢方薬ともいわれ、その薬効成分により、血行を促進して、免疫力をアップさせます。(PB5n\_00145)

(40)免疫細胞はこの情報を受けて、免疫力をアップさせていますが、腸が老化し、悪玉菌が増えると、スムーズに情報が交換できません。(PM11\_00763)

表 10 「アップする」の【原因型】構文の前文に手段節・原因節が伴われる文の数

【原因型】	前文に手段節・原因節を伴う文
「～をアップする」	11 例のうち 0 例 (全体の 0%)
「～をアップさせる」	29 例のうち 6 例 (全体の 21%)

【原因型】の「～をアップさせる」は 2 割ほどその前に手段節や原因節が伴われているが、「～をアップする」にはこのような文が見られない。ここからもより因果関係を明確にしたいときに「させる」文が使われることが窺える。

以上で述べたことを次のようにまとめられる。

(i) 【動作型】構文では「～をアップする」が「～をアップさせる」より多く使われているのに対し、【原因型】構文では「～をアップさせる」が「～をアップする」より多く使われ、他動詞文と「させる」文の担う機能が分化している。

(ii) 「～アップする」は主に【動作型】構文で使われているのに、「～をアップさせる」は【動作型】構文と【原因型】構文が同じぐらいあり、分化機能が「～をアップする」ほどではない。これは「～をアップさせる」の中には「使役余剰」と呼ばれる文があるからである。

(iii) 【動作型】構文で「させる」文は動作性を高める働きがあり、【原

【原因型】構文で「させる」文は主格名詞とそれにより引き起こされる事態や状態との間の因果関係を強める働きがある。

### 5.3 「スタートする」の場合

「スタートする」の他動詞文（「～をスタートする」と示す）と「させる」文（「～をスタートさせる」と示す）の用例数を表 11 にまとめる。

表 11 「～をスタートする／させる」の構文タイプ

	【動作型】	【原因型】	合計
「～をスタートする」	46(100%)	0(0%)	46(100%)
「～をスタートさせる」	75(100%)	0(0%)	75(100%)

「スタートする」の場合は、【動作型】構文のみある。これは「スタートする」の意味と関連している。「スタートする」は「ある活動や制度が始まる／始める」の意味を表すので、他動詞文や「させる」文で使われる場合、その主語 (X) は活動や制度を始める動作主体になる。

「スタートする」は【動作型】構文のみありその主語が限られているので、ここではその目的語 (Y) の特徴を見る。先の表 6 では「～をスタートする」の用例はすべて 10 例以下で、「～をスタートさせる」の用例も「車をスタートさせる」「生活をスタートさせる」以外は 10 例以下である。以下では「車／生活をスタートする／させる」の違いを見る。

格名詞が「車」の場合、ほとんど「させる」文が使われている ((41) 参照)。「車をスタートする」は(42)の 1 例のみで、特定の場面で使われるものではなく単なる行為を表している。

(41) 「ああ、わかってる。大丈夫だ」マガウアンは車をゆっくりとスタートさせた。 (LB19\_00151)

(42) 車を動かすときには、いきなりスタートしないで、アイドルリングをして、エンジンを十分に温めてから走らせます。 (LBj4\_00009)

(30)で見たように、人間が物に働きかける文は動作性が強く、「させ

る」文が使われる。ここでも動作性を強調する文脈では「させる」文が使われることが確認できる。「生活をスタートする／させる」からも同じ傾向が窺える。「生活をスタートする」はその格名詞に「生活」「新生活」「結婚生活」が現れ、単にある種の生活を始めるという意味を表す（(43)参照）。これに対し、「生活をスタートさせる」はそれに加えて、「節約生活」「療養生活」「サラリーマン生活」などの格名詞も現れ、話し手にとってその生活を始めるのは難しさを伴うという意味を表す文が多い。例えば、(44)はサラリーマン生活を大変な状況の中で始める、(45)はかつて経験した最悪な状態を繰り返さないという引き締まった気持ちで療養生活を始めるという意味を表し、話し手にとってその生活を始めるのは普段よりエネルギーが必要とされる。困難な状況を克服するにはより多くのエネルギーが必要とされるので、強い動作性を必要とする文脈と言える。

(43)現在1才児を持つ夫婦共に二十三才です。近々実家を出て新生活をスタートしようと思うのですが国民健康保険料の金額が気になっています。(OC03\_02632)

(44)「入社試験では、キミは最低の成績だった。そのつもりで頑張ってくれ。何かあったら、すぐクビだからな！」とクギを刺されたという。暗澹たる気持ちでサラリーマン生活をスタートさせ、ビクビクしながら上司の顔色を伺う毎日。(PB21\_00060)

(45)患者は急性期を経て回復していった。回復期に振り返りを行ない、自分が経験したケトアシドーシスを身体にとって最悪の状態であるにとらえ、同じ状況を繰り返さないことを目標に療養生活をスタートさせた。(PB44\_00020)

このように、「スタートする」も「アップする」と同様に「させる」文は動作性を強調する文脈で使われる傾向が見られる。言い換えると、「させる」文は動作性を強める働きがあると言える。

#### 5.4 「オープンする」の場合

「オープンする」の他動詞文（「～をオープンする」と示す）と「さ

せる」文（「～をオープンさせる」と示す）の用例数を表 12 にまとめる。

表 12 「～をオープンする／させる」の構文タイプ

	【動作型】	【原因型】	合計
「～をオープンする」	36(100%)	0(0%)	36(100%)
「～をオープンさせる」	13(100%)	0(0%)	13(100%)

「オープンする」は「スタートする」と同様に【動作型】構文のみある。「オープンする」は「新たに商売を始める／始まる」という意味を表すので、他動詞文や「させる」文で使われる場合、その主語（X）は事態を始める動作主体になる。「オープンする」は【動作型】構文のみありその主語が限られているので、ここではその目的語（Y）の特徴を見る。先の表 7 から「オープンする」は他動詞文と「させる」文が「～店をオープンする／させる」に集中していることが分かる。以下では「～店をオープンする／させる」の違いを見る。「～店をオープンさせる」は 7 例中、前文に目的表現が示される例が 2 例あるが（(46)(47)参照）、「～店をオープンする」にはこのような例が見られない。

(46)あちこちに情報収集のための、変な会社や店をOPENさせる  
のやめれ。 (OY13\_06976)

(47)創価の仕事は「結婚」やね。これめっちゃ重要みたいやね。そのために店や会社をOPENさせるくらい (OY13\_06976)

前文に目的表現が示される文脈では動作性が意識され、「させる」文が使われるのであると考えられる。また、(48)のような話者にとって店を開くのが難しい目標であるような文脈も「～店をオープンする」には見られない。「～店をオープンする」はその多くは (49)のように誰かが店を開くことを新しい情報として提示する文脈で使われる。

「生活をスタートさせる」で見たように、動作を行うのに困難を伴う事態はより多くのエネルギーが必要とされ、動作性が高い文脈である。「オープンする」の場合も「させる」文は動作性を高める働きが窺える。

(48)この店には十二人の職人がいるが、全員元サラリーマン。それも平均年齢六十七歳というから驚きだ。社長であるWさんは、十六年前に『第二の人生は自分の力で切り開きたい』とこの店をオープンさせたというが、その後人手不足になったため、定年退職したかつての部下たちをスカウトして、現在の態勢になったそうだ。  
(LBj1\_00027)

(49)業界では有名な大野氏が、遂にリアルなラーメン店をオープンしたのだ。  
(OY03\_07773)

このように、「オープンする」も前に見た「アップする」「スタートする」と同様に、「させる」文は動作性を強調する文脈で使われる傾向が見られ、動作性を強める働きがあると言える。

この節では、BCCWJにおいて高頻度で現れる外来語自他両用動詞「アップする」「スタートする」「オープンする」を対象に、その他動詞文と「させる」文の使用傾向、つまり、冒頭の研究課題(b)を考察した。【動作型】構文で「させる」文は動作性を高める働きがあり、【原因型】構文で「させる」文は主格名詞とそれにより引き起こされる事態や状態との間の因果関係を強める働きがあることが明らかとなった。

## 6. まとめと今後の課題

冒頭で述べたように、本稿の目的は BCCWJ を調査対象に外来語自他両用動詞の使用実態を明らかにすることである。具体的に以下の研究課題を設定した。

(a)外来語自他両用動詞にはどのようなものがあり、自他両用が成立する場合、どういう格名詞と共起しどのように使われているか。

(b)外来語自他両用動詞の他動詞文と「させる」文はどのような使用傾向が見られるか。

(a)について、4節で見たように外来語動詞全体において自他両用動詞の数はそれほど多くなく、先行研究と同じ調査結果が得られた。どのような外来語自他両用動詞がどういう格名詞と共起する場合に自

他両用となり、また、その他動詞文、自動詞文、「させる」文、「される」文の数を調査し表4にまとめた。表4からBCCWJにおける外来語自他両用動詞の使用状況について、自動詞文が半分以上を占めており、使用頻度が高いのは「アップする」「スタートする」「オープンする」の3語であることが明らかとなった。

(b)について、5節ではBCCWJにおいて高頻度で現れる外来語自他両用動詞「アップする」「スタートする」「オープンする」を対象に、その他動詞文と「させる」文の使用傾向を考察した。「アップする」は、【動作型】構文と【原因型】構文があるが、「スタートする」「オープンする」は【動作型】構文のみある。5節の考察から【動作型】構文で「させる」文は動作性を高める働きがあり、【原因型】構文で「させる」文は主格名詞とそれにより引き起こされる事態や状態との間の因果関係を強める働きがあることが明らかとなった。

本稿は頻度が高い外来語自他両用動詞に絞って、その他動詞文と「させる」文の使用傾向を考察し、「させる」文は動作性と因果関係を高める働きがあることが明らかとなった。漢語動詞にも同じ傾向が見られるか今後の課題としていきたい。

## 参考文献

- 青木博史（2006）「原因主語他動詞文の歴史」『筑紫語学叢書Ⅱ—日本語史と方言—』東京、風間書院 pp.274-293
- 荒井文雄（1991）「日本語における起因述語—他動詞と使役動詞の意味論—」『京都産業大学論集 外国語と外国文学系列』18、京都、京都産業大学 pp.82-150
- 庵功雄等（2001）『中上級を教える人のために日本語文法ハンドブック』、東京、スリーエーネットワーク
- 庵功雄・宮部真由美（2013）「二字漢語動名詞の使用実態に関する報告—「中納言」を用いて—」『一橋大学国際教育センター紀要』4、東京、一橋大学国際教育センター pp.97-108
- 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』、東京、ひつ

## じ書房

- 定延利之（2000）『認知言語論』、東京、大修館書店
- 佐藤里美（1990）「使役構造の文(2) 一因果関係を表現するばあい一」  
『ことばの科学 4』、東京、むぎ書房 pp.103-157
- 北澤尚・王潘琳（2021）「現代日本語の外来語サ変動詞のヴォイスにつ  
いての記述的研究」『東京学芸大学紀要．人文社会科学系．I』72、  
東京、東京学芸大学教育実践研究推進本部 pp.9-61
- 工藤真由美（1991）「アスペクトとヴォイス」『現代日本語のテンス・  
アスペクト・ヴォイスについての総合的研究』、横浜、横浜国立大  
学 1988-1990 年度科学研究費報告書 pp.5-40
- 高橋太郎（1975）「文中に現れる所属関係の種々相」『国語学』103、東  
京、日本語学会 pp.1-17
- 田川拓海（2016）「動名詞の構造と「する」「させる」の分布—漢語と  
外来語の比較—」、庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編）『日本語文  
法研究のフロンティア』、東京、くろしお出版 pp.1-20
- 田川拓海（2018）「外来語動名詞の形態統語研究に向けて：範疇、語  
種、形態構造」『文芸言語研究』74、つくば、筑波大学大学院人文  
社会科学部 文芸・言語専攻 pp.39-58
- 張志剛（2014）『現代日本語の二字漢語動詞の自他』、東京、くろしお  
出版
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味I』、東京、くろしお出版
- 永澤済（2007）「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本  
語の研究』3-4、東京、日本語学会 pp.17-32
- 仁田義雄(1982)「再帰動詞、再帰用法—Lexico-Syntax の姿勢から」『日  
本語教育』47、東京、日本語教育学会 pp.79-90
- 野田尚史（1991）「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスとの関係」仁  
田義雄（編）『日本語のヴォイスと他動性』、東京、くろしお出版  
pp.211-232
- ビタン マダリナ（2017）「外来語サ変動詞の自他の計量的分析」『筑波  
日本語学研究』21、つくば、筑波大学人文社会科学部日本語

学研究室 pp.106-114

森田良行（2000）「自他両用動詞から自他同形動詞へ」『早稲田日本語研究』8、東京、早稲田大学国語学会 pp.74-63

#### 付記

本稿は「日語自他両用動詞的自他用法分布與其句構之間的關聯性」(助成番号 108-2410-H-004 -051 -MY2)の研究成果の一部である。また、査読の先生方から有益なコメントをいただき、記して心から御礼を申し上げます。